



# 解答と解説



番号	解答	解説
1	③	焼津の漁師は、カツオ漁の盛んな大正末期から昭和初期に、焼津特有の青と白のシマシャツを着ていたため、各地の港で大変目立つものだったようです。戦前は、各家で女性が織り丈夫な綿布のシャツに仕立てていました。鯉の腹の縞に似ていることから鯉縞と呼び、焼津の漁師が着ていたため焼津縞とも言われました。正式名称は子持ち縞(罎)といいます。戦後も愛着され昭和40年頃まで焼津漁業者の象徴的なシャツでした。機能性に優れ、着心地が大変良いとの評価を受け現在着用者が増えています。写真-①
2	②	焼津神社大祭は、一千年の歴史をもち、8月12日が縁日で賑わう夜宮・御神楽祭、幟かつぎ、神ころがし等の神事、13日に県指定の無形民俗文化財の獅子木遣り、神輿・渡御行列などが行われます。
3	②	月の沙漠は、画家、詩人である加藤まさをの作品のひとつ。作曲家の佐々木すぐるが曲をつけ童謡として有名になりました。「沙」の字は、「すなはま」という意味で、海岸の砂はみずみずしいことから砂漠ではなく沙漠としました。モチーフとなった海岸は加藤が保養に訪れた千葉の御宿海岸の説もあり、生地の近くの海岸(吉永から焼津)の説が本当かは定かではありません。
4	①	小泉八雲は、生前たびたび焼津を訪れ(6回)、当地にまつわる作品を多く残しました。平成19年6月27日に開館した小泉八雲記念館では、八雲に所縁のある品々を多数展示し、八雲が癒しの場として焼津の地を選んだ背景や焼津の人々とのふれあいを時を越えた現代に伝えます。写真-②
5	①	地下1500mの源泉井戸があり、そこから湧き出す天然温泉は、良質なカルシウム・ナトリウム塩化物泉で、海水の約半分の塩分濃度を含んでおり、虚弱体質をはじめ、神経痛、筋肉痛に効き、健康と美容に良いと言われます。焼津黒潮温泉は、市内の8施設でお楽しみいただけます。
6	①	焼津おでんは、串に刺さった黒はんぺんをはじめ鯉のへそ、なると巻などの地元の特産品が入り、みそダレをつけその上にだし粉(いわしとさばの削り節)と青海苔の粉をかけて食べるのが一般的です。
7	④	焼津のお雑煮には、削りたての鯉節をかけて食べるのが一般的です。各家庭に鯉節削り器があり、鯉節を自分で削り食べていました。写真-③
8	①	昭和30年代までは、四月の節句の頃には、「浜行き」などと称し、近くの浜へ弁当やお酒を持って出かけ、宴会をした。隣近所や親戚、同業者などを連れて石津の水天宮さんや浜当目の海岸、元小浜などに行きました。
9	④	近くの観光ホテルでは、和田浜海岸で、4月～10月に地引網の体験ができます。赤えび、たこ、黒だ、真鯛等の駿河湾の海の幸をとることができます。
10	②	八木さんは、昭和49年から焼津市内のお年寄りに肖像画を贈り続け、平成20年で30回目となります。その総数は、95枚となっています。指揮者小澤征爾や小淵恵三元総理大臣他著名人の肖像画を描いています。現在は、東京都町田市に在住です。
11	③	花沢の里にある法華寺は、聖武天皇の天平年中の草創で、本尊である千手観音像は行基作、山門の仁王門は、市の有形文化財に指定されています。弁天様は、上野不忍池の弁天様を勧請したものです。かつて境内に大銀杏がありその大木の様子から「乳観音」と親しまれています。
12	①	大井川の伏流水と静岡酵母、特A地区東条秋津特上米AAA山田錦100%を35%まで削り作られる志太の銘酒の中の極上の一品。その年の出来により価格が変動するピンテーシチャート。ラベルは一本ずつボトルナンバーが入り和紙の王と言われる出雲雁皮紙を使用。写真-④

問合せ先 焼津商工会議所女性会事務局 電話 054-628-6251

13	②	2008年アジア選手権で1位となり北京オリンピックと代表になる。並みいる強豪を破り決勝に進出。レスリング男子では、8年ぶりの銀メダルを獲得。実家は、350年続く浄土宗のお寺。 写真-⑤
14	①	新焼津市は、三つの柱「財政的に自立した足腰の強い自治体になること」「安心して子育てができる環境をつくること」「災害に強いまちづくりをすること」を中心に、策定した合併基本計画に基づく施策を遂行し、活力のある焼津市を築きあげ地域が一体となった発展を目指します。市民の皆さんに「焼津市に住んでよかった」と実感していただけるまちづくりをしています。
15	④	焼津鯉節は、日本近海に來遊してくるカツオを原料にして、身おろし、煮熟、培乾、カビつけなどの製造工程を巧みに組合わせて造り上げた貯蔵性と風味に富む食品です。焼津鯉節ブランドは、本物の味、自然が育てた日本の心を伝えていきます。
16	①	焼津が誇る水産物の購入ができるポータルサイトです。焼津水産ブランドの紹介や焼津の水産業、水産物を使ったレシピなどお得な情報も満載です。
17	④	江戸時代終わりの19世紀初め頃から田中藩領には、浜当目村の原田家や請所新田の原川家などの地域の有力者が大庄屋に任命され藩の村々に対する支配に大きな役割を果たすようになりました。大庄屋は、管轄範囲が複数の村にまたがり、村々の取締り、村々からの願書や訴訟があった場合に村々間の利害を調整を行っていました。 写真-⑥
18	②	4年に1回オリンピックと同じ年に開催される「世界木造船フェスティバル」は、ヨーロッパを中心に2000隻の帆船、木造船が集い100万人の来場者があります。H20年7月にフランスのプレスト市で開催された本大会に日本から唯一「焼津八丁櫓」が参加し欧州の人々の脚光を浴びました。
19	②	11月1日の大井川町の編入合併により生まれた新焼津市の推計人口は、143,330人(旧大井川町の10月1日の推計人口22,695人)。県内7番目の人口規模です。推計人口とは、国勢調査を基礎として、毎月の出生・死亡・転入・転出を加減して算出された数値を基とした人口です。この数字には、外国人も含まれている。総人口を表すには信頼性が高いものである。
20	②	17世紀末頃、毒蓑と呼ばれる油桐は、主に小浜、花沢、野秋、高崎で栽培され、現金収入を得るための貴重な商品作物でした。明治以降は、桐油の需要が減少し、茶やみかんへの改植が進められ今日では、花沢山中腹に数本残されているだけです。 写真-⑦
21	①	鯉節の製造工程は大別して、生切り、煮熟、培乾、削り、かび付けに分かれます。かび付けは、裸節に数回カビを付けることにより節の内部の水分・脂肪分を16%程度まで落とす作業です。10Kgの生のカツオを本枯れの仕上げ節にすると1.6Kgまでの重さになります。完成までの期間は6ヶ月程度かかります。
22	③	当時の焼津は、海の底にあり、高草山の火山は海底で噴火しました。大崩海岸や山腹の農道で見られる枕状溶岩の存在や泥岩からの検出される浮遊性有孔虫(プランクトン)がそれを語ります。この有孔虫の種類から約1800万年前の新生代第三紀中新世早期末から中期初と推定された。高草山の岩石は、カリウムやナトリウムといったアルカリ元素に富む種類からなり、この玄武岩はおもに山陰・北九州地方から韓国にかけて分布し、太平洋側では大変珍しいものです。 写真-⑧
23	①	985年、神社の社殿を再建し、川除守護神を奉斎し、水害防止に力を尽くし治水を祈願し祭祀を厚くすることとした時に、神主、太田良季広は、陰陽師の安倍晴明に請託し神社の方位をトせしめて凶取りをし地鎮を行った。この時の手描き図面が残されている。
24	①	平成14年に氷川きよしの「大井追っかけ音次郎」の歌碑が建立され翌年「氷川きよしのお〜いがわ追っかけマラソン大会が」開催され話題となりました。歌碑は、110万枚のセールスで町のイメージアップに一役買った曲を称えようと、町民の有志による募金で建立した。 写真-⑨
25	④	8月19・20日は安産祈願、安産御礼の女性達が岩田帯を買ったり底のないひしゃくを奉納したりして近郊、近在からの人々で賑わいを見せています。
26	③	近世、大井川の洪水を恐れた人々が考えた舟の舳先形の屋敷です。周囲に土手を築いて水を防ぐ工夫がしてあります。この地方独特の屋敷形です。水の流れのくる方向に屋敷をかまえ水の抵抗を少なくする。旧大洲村方面(藤枝)から上泉・相川・上新田地帯にかけて多く見られる。 写真-⑩

27	①	弘仁2年(812年)当地方は大豪雨のため、大井川が氾濫、海は荒れ田畑は流出し疫病が流行して住民は苦しみにあえいだ。偶々当地を通られた弘法大師は、薬草や治療法を施され住民は救われ、波切不動明王立像(等身大・榊木彫)を授けました。12年に1度酉年の時「本開帳」という大祭が行われご本尊の不動明王像が一般に公開され供養塔が建てられます。 写真-⑪
28	②	灌水を抑えて、ふつうのトマトの約1/3の大きさと成熟するよう、独自の技術で栽培。アメラ独自の糖度基準を設け平均で7度以上(一般のトマト5度前後)となっています。また、カリウム、ビタミンA・C、βカロテン、γアミノ酪酸などの機能性成分が高い濃度で濃縮含有しています。
29	③	およそ千年ほど前の寛和年間に大井川の治水を祈願した農民が豊作を願い奉納したといわれるお祭り。毎年3月17日の祈年祭に、藤守の大井八幡宮に稲作をあらわす25番の舞が奉納されます。昔のままの姿を残しているこの舞は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。 写真-⑫
30	②	踊夏祭は、毎年7月下旬に行われる一大イベント。踊りをメインにコンテストや総踊り、手筒花火、体験乗船、特産品の販売などの催しが大井川港の特設会場で行われます。9回目を迎える21年は、7月19日の開催予定です。
31	①	ヨシガモは、体長は48cm、シベリア東部などで繁殖し、冬鳥として飛来する。飛来していれば、大井川河口野鳥園で他の水鳥とともに観察できる。 写真-⑬ 雌は、褐色で頭部がやや灰色をしている。
32	③	志太土天神は、江戸時代(天保年間)青野嘉作が美濃国青野ヶ原から土細工師を呼び、練天神を作らせたのが始まりといわれている。当時天神は、雨降る神として信仰され農耕にねぎして天神人形が作られました。江戸末期には、この天神に衣装を着せたのが駿河雛人形のルーツとも言われています。 写真-⑭
33	②	陸上競技場は、日本陸上競技連盟第3種公認の競技場です。全天候型トラックと天然芝のフィールド、1500人収容のスタンドが整備されています。サッカー場も併設され、大井川河川敷マラソンコースは豊かな自然を感じながら走ることができる国内最初の河川敷フルマラソンコースです。コース沿いには、一定距離ごとにトイレ、水飲み場、バーゴラ、ベンチ等を配置するなど地域住民の健康づくりの場としても活用されています。
34	②	昭和33年開設以来、航空自衛隊の操縦士の初級教育(初めて飛行機に乗る訓練)を主として担当。卒業生は、最新鋭のジェット戦闘機からジャンボ機の機長、ヘリのパイロットと幅広く活躍しています。毎年5月中下旬の日曜日に静浜基地航空祭が開催されブルーインパルスなどの展示飛行などが行われます。 写真-⑮
35	③	焼津市には、現在自主運行バスが5台あります。大井川地区を運行するのが「すいせん」と「さくらえび」。この名前は、旧大井川町の花と町の特産品の名前です。焼津地区を運行するのは「さつき」と「ゆりかもめ」。この名前は、市の花と鳥の名前です。2009年4月からは、全ての車両が小型・低床(ノンステップ)となります。料金は、定額制です。
36	④	音楽をはじめとする芸術・文化と人々のふれあいを通じて、まちに様々な感動を吹き込んだ大井川にある文化会館。オープン以来ミュージコの愛称で親しまれています。
37	③	家康が鷹狩りの時しばしば立ち寄った代官屋敷で、家康の死後、彼が腰掛けたところに、霊廟を建てたそうです。 写真-⑯
38	①	安政元年(1854年)一昼一夜の間に83回揺れたといわれる大地震に耐えた横山家(下小杉)の住宅は、建築は元禄の頃というから約三百年は経過しています。現在は、屋根が瓦に変わっているが、従前は、かやぶきの古くて大きな農家構えの建築でした。 写真-⑰
39	④	トーロンは、大井川の洪水の犠牲者を供養する為、享保年間に始まり、終戦直後までは各所で行われていた。一部の地区だけに残っていたものを平成13年からまちを挙げてのイベントにした。トーロンは町民の手作りで、長さ8mの杉の丸太の先に竹製の籠(口径1m、長さ5m)を取り付け籠の中に藁や松の小枝などを入れて燃やします。 写真-⑱
40	③	地元農家の小麦と大井川水系の伏流水、駿河湾海洋深層水を使い伝統的な再仕込み製法で醸造・旨味の窒素成分が1.98を越える超特選です。うめえぞこれはブランドは、醤油のほかにそうめんつゆ、そうめんがあります。この醤油を使用した鮎やプリン、アイスクリームなども商品化されています。

※ この解答と解説は、ホームページや書籍に掲載され、一般的に伝えられている事柄を中心に作成しました。問題によっては、諸説言伝えがある場合もございます。